

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100568		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム 和みの家		
所在地	静岡県沼津市大平1538-1		
自己評価作成日	令和元年度10月11日	評価結果市町村受理日	令和元年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2271100568-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年度10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の保育園、幼稚園、老人会、ボランティアの交流、認知症カフェの開催の機会を定期的にもつことで、地域とのつながりを大切にして、社会との交流を楽しめるようにしている。また、家族の関係性が保てるように家族への情報提供や提案など積極的に働きかけ利用者の生活がより良いものとなることを目指している。健康面については、医師や訪問看護師との連携に力を入れ、看取りケアの体制も整えている。利用者の心身状態の変化にきめ細やかな対応ができるように、ミーティング時の情報共有、認知症ケアの勉強会を通して専門性を高め、その人らしい生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニットの扉を開けると、笑顔とともに「いらっしやい」の声で利用者の出迎えがある事業所です。平成30年度よりスタートしたオレンジカフェ「クローバー」開催の日は利用者がお客さんを出迎え、手作り水ようかんを提供したり、家族のハーモニカボランティアや大平老人会が踊りを披露したりと賑やかです。どの利用者にもホスピタリティとウェルカムが滲む表情は、「クローバー」を通じて醸成されたものと推量され、事業所としても地域の高齢者や認知症の家族をかかえる人の介護相談等、気兼ねなく来所できる開かれた施設になればと考えており、引き続き取り組んでいきたいとしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、施設理念に基づいた施設の年度事業計画をふまえて、事業所としての年間計画を職員の協議によって策定し、実践と評価をPDCAサイクルで次につなげている。個人目標へもつなげている。	法人理念、和みの郷の理念、そして年度目標をベースに「自分ができることを考えよう」と個人目標を立てています。サービス向上会議で理念や年度目標について省みて話し合う時間を持っており、個人目標については年に一度の面談で振り返りをおこなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園、幼稚園、老人会、ボランティアとの交流を定期的実施し馴染みの関係作りを大切にしている。また、認知症カフェの開催でグループホームの理解と開かれた施設を目指している。	大平11区の納涼祭には法人代表として管理者が準備段階から携わり、当日は事業所駐車場も提供しています。また保育園、幼稚園児の来訪が定期的であり、中学生の職業体験は毎年3校の受入れに協力していて、長くこの地に息づく法人の強みが生きています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と協賛して認知症カフェ開催し、地域の方への認知症の人への理解と交流を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者に対するサービス提供の報告を行ない、地域を代表する出席者の意見をいただくとともに、包括等の最新情報を得て、サービス向上に反映するようにしている。	併設の小規模多機能事業所と合同開催しています。市長寿福祉課、地域包括支援センター、保育園長、老人会、介護相談員2名、駐在所、家族1~2名、利用者4名に職員も加わり総勢20名以上の集いに、本年度から民生委員の出席が得られ、さらに場が高揚しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席を依頼し、議事録の提出の際やグループホーム連絡会等で積極的に情報交換を行っている。	行政も出席する沼津市南部地区グループホーム連絡会は、同法人事業所の会議室を借りて隔月開催されています。また地域包括支援センターと共同でオレンジカフェを運営するほか、日頃からエールを送ってくださる介護相談員は運営推進会議にも出席くださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を実施。施設の身体的拘束適正化検討委員会と連携し、指針の見直しやマニュアルの整備を行なった。今年度は、スピーチロック根絶をきっかけ職員の意識向上に努めている。グレーゾーンの不適切ケアやスピーチロックについても意識を高める研修会等を行っている。	昨年の法改正に基づき、指針を作成のうえ「身体的拘束適正化委員会」が3ヶ月毎に開催されています。その他の実施要件も満たし、事業所の課題として年度目標である「人材育成の視点」においてスピーチロックの根絶をあげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の全体研修で施設長による倫理、虐待防止の研修を実施している。事業運営会議を通じ、虐待に関するニュース事例を取り上げて注意を促す情報発信をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用する入居者はいないが、ケアマネは権利擁護の研修へ参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時は利用者、家族の理解力に合わせて丁寧に説明している。契約内容の変更にもその都度、説明同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の意見意向をキャッチした職員は、日々の申し送り、記録、サービス向上会議等を通じて発信し、チームで検討し実践にいかしている。	事業所通信「和みの家便り」を毎月家族に送付、「写真もファイルしてとってある」「様子が分かるので安心」との声が届き、ホームページでのブログを通じて行事やおやつ作りの様子を見た家族からも「楽しくやってるんですね」などと飲んでもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チームのサービス向上会議で解決できない要件については、サービス提供責任者を通じて和みの郷管理会議に上申できるしくみがある。	年度目標に「業務改善の視点」を掲げており、業務表には赤字で「気づいたことはドンドン書き込んで」と表記のうえ奨励され、記録された気づきをもとに是正する仕組みが確立しています。また個人面談も年1回おこなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の仕組みや面談により、職員個々の目標ややりがいの確認をし必要に応じ、希望する職種、職場に異動させている。非常勤職員も申し出に応じ、勤務条件の変更等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や適性に合わせた役割や研修参加の機会がある。(和みの家勉強会、施設研修委員会企画、法人研修)研修参加時には、上司の動機づけ面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会で、地域の動向やそれぞれの事業所の取り組みについて情報交換をおこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や意向は普段の会話や家族からの情報から汲み取り、記録やミーティングを通してできるだけ早く職員間で情報共有し、ケアの統一をすることで安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談では特に傾聴を心がけ入居に至った思いや願いを聴かせていただき本人が望む生活を家族と共に支えるため、良好な関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況や現状に適した支援について家族とも相談しながら対応している。事業所の対応できることを丁寧に説明し、訪問理美容等活用できる他サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中での出来ることを探して職員と一緒にしない、お互い認め合える関係性を築けるよう努めている。例:洗濯干し、たたみ、テーブル拭き等、必ず感謝を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常のエピソード、特に表情などを伝えるようにしている。毎月のお便りには、各担当が写真とともにコメントを添える。家族も共に楽しめる行事や外出を計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人が訪れた際には気兼ねなく過ごせる場所を設定、お茶をお出しするなどゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。外泊は困難でも家族との外食、外出の提案をしている。	長年親しんだ美容師が事業所に通ってくださる人、家族が届ける毛糸で帽子やベストを編む人、誕生日企画で職員と故郷までドライブに出かけた人、家族と外食を愉しむ人など、それぞれ馴染みの人、コトが継続できています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者同士の関係性を観察し、気の合う関係、会話がはずむ関係、トラブルになりやすい関係を見極め、席の配置や職員が介入しての会話などで和やかに過ごせるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、支援が継続できるように家族の要望に応じている。直近の死亡退所のケースでは、私物の処分の相談を受けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で会話や表情から思いや要望が察知できるように努め、言葉で表現することが難しい方は、行動からよみとれるよう意向にそったものになるよう検討している。	介護計画書の更新時には職員全員がセンター方式C-1-2「私の姿と気持ちシート」を書き改め、対応する職員によって利用者の訴えがに变化があったとの事実をはじめ異なった視点からの気づきをチームケアに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集に加え、日常での言動から得た情報は、家族に確認し、入居前の生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況、気持ちの変化を経過記録やミーティング(夜勤者から早番、早番から遅番、遅番から夜勤者)の中で共有し、ケアの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当者とケアマネを中心に実施。日常からの気づきは、面会時やお便りで家族に伝え、現状に即したケアの提供に努めている。	フォーカスコラムにサービス内容の記号と結果を書くことが体系化され、担当者が3ヶ月ごとにモニタリングをおこない、記録を通して暫定プランが導かれていくまでに昇華しており、独自の方式を導入したことで職員に介護計画書の意義と重要性が浸透しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や日常的な出来事は、経過記録に記入し職員間で共有をしている。ケアプランの実践記録も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の天気や会話に合わせて、あるいはご本人の気持ち、ストレスなど変化を感じ取り、買い物やドライブ外出などを支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読み聴かせのボランティアや老人会との交流。自治会主催の納涼祭に準備段階から参加し、敷地内で売店を協働するなど、事業所では創り出せないお祭り気分を楽しむことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設が契約しているかかりつけ医にこだわらず、在宅時代の医療機関を継続することができる。家族対応の受診は、身体状況を受診表に記載し、家族に説明している。家族からの受診結果を聞き取り記録に記載し情報共有と訪問看護師への情報発信もしている。	月2回訪問診療がある協力医に8名が変更、結果は個人記録に書き込んでいます。1名はかかりつけ医を継続しており、受診支援をお願いしている家族に「受診連絡票」を通じて医師・看護師に伝えてほしいことを渡しています。専門医も家族が付き添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月3回の訪問看護師による健康チェック時に身体状況の気づきやケア提供方法の相談を行っている。転倒や表皮剥離、急な発熱など24時間電話による相談が可能、適切なアドバイスにより介護職によるケアを提供することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の状況や経過を家族と医療機関へ連絡を密にして情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時は”利用者の重度化及び看取り介護に関する指針”により説明・同意を得ている。状態変化時は、本人、家族の意向・要望を再確認している。ケア内容を家族・看護・介護で話し合い、同意を得た上で看取り期の支援に取り組んでいる。	2年間で4名を見送っています。偲びのカンファレンスでは、「痛みも苦しみもなく自然な状態で最期を迎えられた」「最期の最期までフロアで過ごせた」等々、たくさんの職員の想いが吐き出されており、延命についての意向確認も年に1回はおこなうようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修として普通救命講習を実施し職員全員受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の防災対策計画・防災マニュアルに則り、避難訓練を実施している。浸水する地域であり、地域の方の車を預かったり、自治会、消防団と情報共有し協力体制を整えている。	和みの郷防災委員会が中心となり毎月訓練を計画し、和みの郷全事業所で取り組んでいます。今回の台風では床上浸水の危機がありましたが、常の準備が役立ち、事業所間の連携と職員の確かな判断で利用者の生活を乱すことなく被害を最小に抑えることに実っています。	消火、通報、避難誘導といったメニューにおける職員の習熟度を一覧とし、より必要な人が該当訓練に携わることができるようになれば、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当たり前のことではあるが、名前で呼びかけること。利用者の中で本人の相談はしない等を心がけている。寝る、起きる、お茶にする等、本人の意思を確認しスケジュールは強制しない。	年度目標の「人材育成の視点」において、「職員としての礼儀、身だしなみ・挨拶・言葉遣い・ホウレンソウ」「スピーチロック根絶、互いに信頼し合える関係性を築く」を掲げ、利用者へのサービスの質を担保しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を示すなど、自己決定しやすい機会や言葉かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせて過ごす場所(自室又はフロア)を本人が自由に選べるように支援している。また、活動性の低下にならないように注意もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の洋服選びなど、自ら身だしなみやおしゃれができるように声がけし、一緒に選んだりセッティングを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で好きな味、食べたい物の話題は多くそれを手掛かりに食に関する行事企画につなげている。おやつに作るミルクティーなどでも個別に味の感想を求め好みの把握に活かしている。食事前のテーブル拭きは利用者同士、協力して行っている。	食事は敷地内の厨房から運ばれています。検食簿をつけ、給食委員会で協議するとともに、おせち、ひな祭り、敬老会などにおいて季節行事に合わせたメニューを用意し、また夕涼みの会ではビールで乾杯し、利用者とお好み焼きや焼きそば、つくねを作って楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量はフローシートに記載し一日の摂取量が確保できるように促している。その日に確保できなかった場合は翌日につなげることができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、義歯洗浄を利用者に合わせて行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記載して利用者の排尿間隔を把握、ひとりひとりに合わせた物品(パットのサイズ)や時間帯での誘導を行っている。	排泄表は水分量も記録してインとアウトのバランスを把握し、さらに「両手」「たまご」といった記録法で排便量も記録しています。また排泄用品は皮膚トラブルのないものを厳選し事業所で一括購入して割安となっているため、家族の経済的負担にも貢献できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけや利用者に合わせて下剤の調整を主治医と訪問看護師と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日常的な入浴拒否があるが、声をかけるタイミングや声かけの工夫をして入浴しやすい環境づくりに努めている。無理強いせず翌日に調整するなどの対応をしている。	週に2回を清潔の目安とし、現在毎日入りたいといった希望の人はいません。足し湯で湯の張り替えはしていないものの、柚子の時期には香りを楽しみ、春には浴室の窓から満開の桜を眺めるといった贅沢があり、気持ちよくなって歌を口ずさむ利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えや夜の覚醒状況の情報で昼間の過ごし方や起床の時間、午睡の工夫を利用者に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を経過記録と同じファイルに綴じてあり薬の用法・副作用に関する情報を得ている。利用者に合わせた服薬の仕方で行っている。薬変更時は状態変化を観察し主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら「何かお手伝いすることありますか?」とおっしゃる方もあり、洗濯干しなどに喜ばれる作業や役割をセッティングし職員と共に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節や天候によって外出の機会をふやしている。本人希望の夕食の企画を担当者がいたりしている。散歩や野菜の収穫なども行っている。	年間行事として特定せず「会話で出てきたから」「気分転換が必要」と行先も目的もさまざま、牛臥公園、港口公園、狩野川さくら公園、狩野川緑地、御用邸、三島大社といった地域資源を活用しています。買い物外出も含め、少人数で月に4~5回は出かける機会があります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にお金を遣うことはないが本人の希望で買い物や欲しい物がある時は、家族に相談して実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や親族より手紙やはがきがくることはあるがつながりが切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間でリビングの室温・湿度チェックをしている。食事や体操やお茶の時間などに音楽を流したり童謡を流して歌ったりして過ごしている。散歩の際に摘んだ花を飾ったりしている。	行事予定や写真掲示をおこなうのはコルクボードと定め、「落ち着いた雰囲気になるように」との意識とともに「季節外れのものは速やかに取り除いてゆく」配慮がみられます。フロア清掃は夜間を中心に毎日おこない、インフルエンザなど感染症の発症も近年ありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビの前にソファを置き馴染みの利用者同士ゆったりくつろげる空間にしている。食事の座席も気の合う人同士などにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や思い出の物など、装飾は家族と相談しながら行っている。	こだわりのある人の居室は、幾多の小物や衣類、布で埋め尽くされていました。「金属のベッド柵は冷たいから」と布で覆ったり、冷蔵庫には歯ブラシやコップなど用途にそぐわない物品が入っていたりもしますが、本人なりのルールがあるため職員は見守りに徹しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの生活動線を考え居室・共有スペースの家具の配置などに配慮している。居室やトイレは見やすく、分かり易い文字で場所の案内表示をしている。		